

紫峰の風

shihou no kaze



筑波大学
University of Tsukuba

第3号 2017年2月

「紫峰の風」は学生生活の様子や活動の報告を、基金協力者の皆様にお届けする広報誌で、紙面の企画や記事の取材等は学生広報会議や広報部会の学生が実施しています。この名称には「筑波の峰から吹き降りる風に、我々の活動への想いを乗せて、全国の皆さまのもとへお届けする」という意味が込められております。



写真左上から：
白熱するサッカーの試合
スポーツ・デー学生委員会と参加者の集合写真
新学生企画の吹き矢
正式種目へのエントリーの様子
写真右上から：
学生企画のミニバレー
正式種目のキックベース
開会式のパフォーマンス
秋季スポーツ・デーを締めくくるとバルーンリリース

スポーツ・デーを終えて

本年度、筑波大学スポーツ・デーは記念すべき40周年を迎えることができました。これもひとえに、皆様のご支援の賜物であることより感謝しております。

さて、本年度の秋季スポーツ・デーは昨年度とは異なり、非常に天候に恵まれた中での開催となりました。お力添えを頂いた晴れ男晴れ女の皆様、ありがとうございました。この節目の年の開催を迎えるに当たって、より楽しく、満足できるスポーツ・デーを

開催しようと、委員一同努力を惜みずに進むことができたと思います。その甲斐あってか、本年度の春秋合計参加者数は1万5千人に登り、過去40年間でもっとも多くの方に足を運んでいただくことができました。来年度以降もより多くの方々にスポーツを楽しんでいただけるよう、日々思索を重ねてまいりますので、ご理解ご支援のほどよろしくお願いたします。

(寄稿/スポーツ・デー学生委員会委員長 藤田昂樹・情報3年)

キャンパスニュース



リーダー研修会を終えて

平成28年度課外活動団体リーダー研修会が、国立赤城青少年交流の家で、11月26日と27日に実施されました。この研修会は、文化系サークル連合会・体育会・芸術系サークル連合会の三系に属する団体の責任者などが対象で、組織や団体のあり方や意義について学ぶ行事です。課外活動団体リーダー研修会実行委員会は2016年1月から本格的に始動し、内容をじっくりと話し合っていました。しかし今年は、多くの他団体様と施設利用が重なってしまい、当日は様々な面でご不便をおかけしてしまいました。実行委員一同、来年度への引き継ぎとサポートを全力で行い、よりよいリーダー研修会を作っていく所存でございます。最後に関わって頂いたすべての皆様へ心から御礼申し上げます。終わりの言葉といたします。

(寄稿/課外活動団体リーダー研修会実行委員会委員長 酒井貴義・応理3年)

写真左上から：
体育会の系別会でスポーツ・デーのサークル企画を考える様子
坂本憲治助教による講演会、
各系の運営委員長挨拶(左から文サ連、体育会、芸サ連)
研修会の最後に撮影した集合写真
文サ連の系別会での模擬団体協議会
体育会の系別会での模擬代表者会議
芸サ連の系別会での団体紹介

援助金ありがとうございました。

課外活動団体リーダー研修会は、筑波大学紫峰会基金より、援助金約30万円の御支援をいただきました。学生の宿泊費用の軽減など、学生が気持ちよく参加しやすい環境づくりに大変有効に使わせていただきました。御支援、誠にありがとうございました。

(寄稿/課外活動団体リーダー研修会会計 林直哉・情報3年)

文化系サークル連合会	
団体名	構成員数(人)
I.T.C.	9
アマチュア無線クラブ	21
Amusement Creators	13
E.S.S.	30
池坊華道部	13
囲碁部	13
宇宙工学研究会	13
映画研究会	17
SF研究会アルビレオ	6
園芸クラブ	11
海洋研究会	54
写真部さくら組	23
歌留多部	35
斬桐舞	38
現代視覚文化研究会	76
茶道同好会	37
茶道部和敬静寂社	30
山岳旅の会	9
社会福祉研究会	198
手話サークル	22
将棋部	21
図画団	35
ストーリーテリング研究会	19
T.A.S.C.	28
筑波大鉄研「旅と鉄道の会」	31

つくば鳥人間の会	15
筑波文学の会	12
天文研究会	58
TOJO K-ON	102
ねっしー・自然教育研究会	70
文芸部	27
マジシャンズクラブ	19
漫画研究会	20
野外活動クラブ	16
野生動物研究会	35
歴史探訪会	31
CLOVER～難民と共に歩むユース団体～	21

芸術系サークル連合会	
団体名	構成員数(人)
アカベラサークルDoo-Wop	121
E.L.L.(筑波軽音楽協会)	125
男声合唱団メンネルコール	10
筑波大学応援部WINS	67
合唱団むくどり	12
管弦楽団	119
ギター・マンドリン部	31
劇団竹蜻蛉	21
劇団筑波小劇場	18
混声合唱団	37
ジャグリングサークルSheep	16
写真部	23

JAZZ愛好会	59
書道部	39
吹奏楽団	59
津軽三味線倶楽部無絃塾	50
筑波音楽協会	64
筑波能・狂言研究会	16
つくばフォーク村	37
THK筑波放送協会	36
ときめき太鼓塾	20
人形劇団NEU	8
ピアノ愛好会	86
ViCC映画をつくる会	18
舞踏研究会	21
ブロックプレーテ同好会	9
邦楽部	31
ミュージカル集団ESSASSA	62
落語研究会	28

体育会	
団体名	構成員数(人)
アーチェリー部	24
合気道部	6
アイススケート部	12
男子アイスホッケー部	27
女子アイスホッケー部	9
アメリカン・フットボール部	41
オリエンテーリング部	54

鹿島神流武道部	23
空手道部	13
弓道部	22
剣道部	56
硬式庭球部	26
硬式野球部	86
サイクリング部	73
女子サッカー部	17
蹴球部	115
柔道部	48
準硬式野球部	24
少林寺拳法部	4
水泳部	57
スキー部	12
漕艇部	13
男子ソフトボール部	26
女子ソフトボール部	9
体操部	15
体操競技部	30
卓球部	38
ダンス部	20
トライアスロン部	40
軟式庭球部	20
馬術部	15
男子バスケットボール部	36
女子バスケットボール部	16
バドミントン部	38

男子バレーボール部	15
女子バレーボール部	13
男子ハンドボール部	26
女子ハンドボール部	23
フィールドホッケー部	11
ヨット部	4
ライフル射撃部	15
男子ラクロス部	44
女子ラクロス部	23
ラグビー部	91
ライフセービング部	12
陸上競技部	242
剣道同好会	27
サッカー同好会	73
トランポリン同好会	25
バスケットボール同好会	22
バドミントン同好会	159
バレーボール同好会	49
ハンドボール同好会	10
フェアリースキークラブ	20
ワンダーフォーゲルクラブ	39

体育会医学部会	
団体名	構成員数(人)
医学アイスホッケー部	51
医学剣道部	27
医学硬式庭球部	98
医学ゴルフ部	56
医学サッカー部	55
医学準硬式野球部	46
医学水泳部	76
医学スキー部	22
医学ソフトテニス部	48
医学卓球部	32
医学バスケットボール部	51
医学バドミントン部	81
医学バレーボール部	34
医学ハンドボール部	49
医学ヨット部	24
医学ラグビー部	60
医学陸上競技部	86
医学空手道部	13
医学弓道部	71

学生相談室から

受付窓口 029-853-2415
電話相談 029-853-2406

「授業・研究室に行けない」 保健管理センター学生相談室 田附あえか

学生相談室で相談を受ける内容でもっとも多いテーマの一つが「授業・研究室に行けない」という訴えです。多くは指導教員や担任、家族に勧められて来談します。連れられてやってくることもあります。そんな学生に出会うと、相談を受けるカウンセラーはまずその背景にあるものは何かと考えます。現象としては不登校の状態ですが、そこに至るルートは実にさまざまです。

カウンセラーの頭にはかなり多くの仮説が浮かびます。授業・研究内容に関心が持てないのか。学力の問題か。研究成果がでないのか。クラスや研究室で批判を受けたり陰口を言われたりするなど対人関係の問題なのか。指導教員とうまくコミュニケーションが取れないのか。優秀な学生で周囲からの期待も高いがそれに応えるのにくたびれたか。うつをはじめとする精神疾患の状態なのか。最初につまずくと立ち直るのに時間のかかるタイプなのか。これまで周囲の意見で動いてきたので、大学生として自発的に決断

できないのか。実家の家族が問題を抱えていて気にかかり大学どころの状態ではないのか、などなど。それぞれの仮説にはもっと細かな仮説が付随しています。それこそ無数の説の中から、目の前の本人を取り囲む状況を説明するのに適合しそうな仮説を探っていくのが、カウンセラーが行う第一の仕事です。何よりも本人の語りを丁寧に聞き、同時に適切な質問をしながら、仮説を絞っていきます。人の心は、自然科学が仮定するように「原因結果」が単一直線で成り立っているわけではないので、複数の要因の折り重なりあいを複層的・円環的に見ていきます。このプロセス自体が、本人の心の整理にもつながりますし、本人が納得できる背景が把握できると、問題解消の方向性がおのずと見えてくることもあります。授業や研究室にいけない、という現象の背景には実に多くの事柄が入り混じっています。これまでの人生を振り返り、新たな方向性を見つける契機にもなるのです。

桐の葉日記

新年を迎えると、寒波が襲来してつくばは厳しい寒さに見舞われました。朝は特に気温が低いので行動を始めるのがおっくうになってしまいます。また周りでは急激に気温が変わったことからか風邪を引いてしまった人も目立ちます。

私は今年から紫峰の風を編集することになりました。あまりこういう仕事に慣れていないことからこの先うまくやっていけるか不安な気持ちでスタートしました。そういう状況の中、なんと私が風邪を引いてしまいました。一人暮らしで高熱で寝込んでいる時ほど心細いことはありません。この思わぬハプニングにより私の執筆作業は遅れてしまいました。

しかしここは前向きに考えます。最も大変な時期を最初に経験したことによって、今後何かが起こっても落ち着いて対処できます。今回、紫峰の風をいかに作り上げていくかを学んだため、これからはさらに魅力ある広報誌を発行していくため尽力させていただきます。

(文責／芸サ連広報局長 劉承桓・地球2年)

学類・専門学群紹介

人間学群 教育学類

学類紹介

教育学類は、学校、社会、家庭という場を通じて行われる人間の生涯にわたる学習や教育について、さまざまな視点と視野から多層的に学ぶことで、高度な専門的知識と教育実践力・研究力を備えた人材を育成しています。

教育学類の学生より

「教育」とは一体何なのでしょう。学校での授業？ 家でのしつけ？ 新人の研修？ きっとそのすべてが「教育」でありもっと広く大きい概念が「教育」には含まれているのでしょうか。それだけ可能性の広い学問が教育学なのです。

私自身は将来教員になりたいので、そのためにはそもそも教育について知っておかなければいけないなと思い、この学類を志望しました。いざ教育について学んでみると、「教育」の多様さに驚かされました。学校教育ひとつとっても歴史、制度、他国との比較など数知れず。そしてそもそも学校だけが教育の場ではないのです。この驚きの連続はきっとこれからも続いていくのだらうと思います。

教育学類の特色はなんとといっても人数が少ないことです。そのため学類全体での団結も強く、同じ学群の心理学類や障害科学類の人たちとのつながりも強いです。また、少数精鋭のため先生方の熱い指導を存分に堪能することができます。筑波大学で最も贅沢な学類のひとつです。

最後に私事ですが、現在2年生の私は専門領域を決めなければならぬ時期になりました。どの先生のもとへ行っても実りあるものであるだけに、なんとも悩ましいものです。

(寄稿/太田拓海・教育2年)



学生の発表の様子

アジア教育史

この授業は春と秋で形式が大きく異なり、春は東アジア（主に韓国）の教育の歴史についての先生からの講義、秋は学生によるアジアの教育に関するレポートの発表が中心です。私は教育の中の市場原理を、中国を例に見ていきました。ほかの例だと、タイやシンガポールといった東南アジアや、アフガニスタンなどの中東の国々の教育についての発表もありました。発表の後、質疑の時間がとられ、疑問点やより深い議論をしたい点などを学生同士で挙げます。活発な意見交換が行われ、さらに理解は深まり、考える機会も増えていったと感じています。

同じ文化圏の教育を学ぶことで、東アジアの教育の共通点・問題点や、日本の教育の特異点などを考えることができました。また、2年生だとこのような質疑も交えた本格的な演習形式の授業への参加が初めてのことが多く、卒業研究やその発表へのイメージをつかむためにもとても有意義な授業だと感じました。

さらに、この授業を基礎とした「アジア教育史演習」という授業では、実際に韓国へ2泊3日の巡検を行い、より直接的に他国の教育について考える貴重な機会が与えられています。

(寄稿/長瀬利勝・教育2年)

キッチンカー

大学の食事提供事業に対する学生等の要望により、2016年10月から大学構内でキッチンカーの試行営業が開始された。キッチンカーは2017年2月まで大学内4カ所まで営業している。本学は授業間移動が長いこともあり、手軽な食事場所として昼休みは

多くの学生で賑わう。来年度の営業は未定のようなのであるが、是非とも来年度以降の営業にも期待したい。

(取材/体育会医学支部前広報局長 塚田亮羽・医学2年)



クレープランチのキッチンカー

—内容—

キャンパスニュース	1、2頁
課外活動団体構成員数一覧	1頁
学生相談室から、桐の葉日記	
学類・専門学群紹介、大学院進学報告	2頁
特集：筑波大学モニュメントツアー	3頁
芸サ連、体育会、全代会、文サ連活動紹介	3、4頁
卒業式・入学式のご案内	4頁

情報学群 情報科学類

学類紹介

情報科学類は、情報処理の装置や仕組みを作り出す方法や使いこなす方法まで、「情報」に関わる多くの技術と考え方について学ぶ学類です。コンピュータなどの基盤的な技術から、音声画像認識などの応用まで、幅広い授業をしています。

情報科学類の学生より

現在、至る所に情報はありふれています。情報が組み込まれた「もの」を我々は、そのシステムや理論を知らずに扱うことができます。情報科学類ではこれらの「もの」を作る上の考えや理論、技術などの基礎を学べます。当初私は、ゲームで教育の柱を構築したいという漠然とした思いでこの学類を志望しました。しかし、情報をより知ることで他分野への興味が深まり、己の無知さも実感しました。このような学びを通じ、自分が本当にしたいことの再認識ができました。



この学類の特徴は、大学院レベルの分野の基礎も学べる幅広さ、学生が自ら実践できる環境の2点です。初心者は基礎から学べ、経験者は応用に挑戦できる土台が整っています。やる気さえあれば何でもできるという自由さがこの学類の最大の利点とも言えます。

情報科学は自分の製作物が世のためになることを実感できる学問分野です。そのため実世界の課題解決や情報技術の発展を目指す学生は、この学類を面白く感じるでしょう。

(寄稿/林直哉・情報3年)



グループ実験の様子

情報科学基礎実験

私たちは日常生活においてエアコンをよく利用している。エアコンには温度センサが組み込まれており、部屋の温度を調べそのデータを入力し、室温と設定温度を比較して判断し、出力の強弱を決めている。このように、入力・判断・出力の流れをCPUと呼ばれる制御装置が組み込まれたプログラムをもとに命令して実行することで、一つの機械として機能している。

この授業ではテーマをもとにプログラムを書き込むだけでなく、Arduinoと呼ばれるマイクロコンピュータの一種を用いて実際に回路を組み実験を行う。また、発想を応用して実行したいことを見出し、組んだ回路に基づいてプログラムを書き上げ創造力を鍛える。それらを通して、プログラミングの基礎知識を体験的に学習することで、工学の基礎的な素養を身につけることをこの授業の目的としている。

(寄稿/来栖壮馬・情報1年)

医学群 医学類

学類紹介

医学類は医学を通して社会に貢献できる人材を育成する学類である。卒業生の多くは医師として働くが医学研究者、医学教育者など様々な進路があり、各々の分野で活躍できるように卒業の時点で基本的な臨床能力と医学研究能力を身に付けることができるようなカリキュラムとなっている。他の学類と異なり、6年制がとられている学類である。

医学類の学生より

私の所属する医学類は、その名の通り医師を目指す学生が集まります。多くの卒業生は臨床医としての道を歩みますが、研究者、行政官、教育者としての道を歩んでいる卒業生、そしてそれを目指している人も多くいます。そのための施設や学ぶ場も充実しています。

私が筑波大学を目指した理由もここにあります。入学前研究医になりたいと考えていた私にとっては、学生のうちに研究室に参加できる研究室実習があることに魅力を感じました。ですが私は今、将来どんな医師になるのか悩んでいます。それも筑波大学のおかげです。筑波大学では、1年生のうちから実際の患者さんに関わらせていただく実習や病院見学などの機会も多くあり、さらに総合大学なので全く違う考え方の友人に出会えます。そのおかげで、医師としてできることは研究以外にもある、と知りました。自分にとっては良い悩みです。筑波大学に入らなければ生じなかった悩みです。

また、医師には専門的な知識や技術がもちろん重要ですが、どんな医師であっても、医療チームの中心としての役割を果たすことも大切だと、多くの卒業生たちが口にしていました。普段の授業の中には、少人数のグループで課題を討論するチュートリアル方式の授業があります。医学的な知識をつけながら、問題抽出方法や、話し合いの仕方、などが自然と身につきます。

他の学群と異なり、6年間学生生活を行なえるのは恵まれていると思います。残りの4年間、カリキュラムと共にじっくり悩んでいきたいと思っています。

(寄稿/鈴木綾乃・医学2年)



一年生で行われる生理学実習

授業紹介

医学類の授業では通常の講義室で行われる講義に加え医学類ならではの授業としてPBLチュートリアル教育と、実習があげられる。

PBLチュートリアルは、事例(ケース)を出発点とし、その問題点を探り、自ら得た知識を活用しながら解決を図るプロセスを学ぶことを目的としており、チュートリアル形式(チューターのもとで行う少人数グループ学習)を中心として講義・実習を組み合わせたカリキュラムで行われる。臨床実習に入るまではこのチュートリアル教育を通して、いかにして自らの知識を疾患の判別に役立てるかなどを学んでいく。

実習は各単元ごとにその単元において重要な分野に関わる実験などをおこない、その結果を考察し、レポートにまとめるといった一連の流れで行われる。例として2年生で受講する解剖学では講義に加え、実際に人体解剖を行う。(寄稿/笹井裕平・医学1年)



生命環境学群生物資源学類 4年

日原奨希

はじめまして、生命環境科学研究科環境バイオマス共生学専攻に進学することになった日原といいます。私は「栄養が少ない環境で微生物はどうやって生き残っていくか」というテーマで研究を行っており、おはようからおやすみまで大腸菌と寄り添っています。今回私は「大学院入試」についてここで書かせて頂きます。大学院入試の内容は専攻や年度によって異なることが多いので、私がここに書いたことはあくまで参考程度にしてください。院試を受ける人は半年前からホームページで情報を確認し、入試概要のページを付け回すといいと思います。私の専攻では試験内容は英語、筆記試験、面接の3つでした。英語に関しては、TOEICと試験当日のテストのどちらかを選ぶ形でした。3つの対策を同時に立てるよりも、1つだけでも先に終わらせておくのが賢明だと思いい、私はTOEICを受ける方を選びました。当時の私は英語の論文を読む必要に迫られていたので、それをTOEICの勉強と兼ねることにしました。結果的には語彙力がアカデミック系に大きく偏り若干の憂き目を見ましたが、合格圏内には入れました。筆記試験の内容は

専門科目でした。大学入試の時と比べると範囲は非常に狭いですが、内容は底なし沼の如く深いです。私は過去問を一通り解いてから、漬物石に出来そうなくらいの参考書を2冊図書館で借り、入試に出る範囲をピックアップしてひたすら読み込んでいました。面接については、面接官の先生方が20人ほどいらっしゃったので、ライブをしているような気分になりました。面接で話すメインの内容は「大学時代にやってきた研究」と「大学院でやりたい研究」についてでした。自分の研究を分かりやすく口頭で伝えるために、事前の推敲が重要になってくると思います。私の書いた経験談が進学希望者の役に少しでも立てば幸いです。

はじめまして、生命環境科学研究科環境バイオマス共生学専攻に進学することになった日原といいます。私は「栄養が少ない環境で微生物はどうやって生き残っていくか」というテーマで研究を行っており、おはようからおやすみまで大腸菌と寄り添っています。今回私は「大学院入試」についてここで書かせて頂きます。大学院入試の内容は専攻や年度によって異なることが多いので、私がここに書いたことはあくまで参考程度にしてください。院試を受ける人は半年前からホームページで情報を確認し、入試概要のページを付け回すといいと思います。私の専攻では試験内容は英語、筆記試験、面接の3つでした。英語に関しては、TOEICと試験当日のテストのどちらかを選ぶ形でした。3つの対策を同時に立てるよりも、1つだけでも先に終わらせておくのが賢明だと思いい、私はTOEICを受ける方を選びました。当時の私は英語の論文を読む必要に迫られていたので、それをTOEICの勉強と兼ねることにしました。結果的には語彙力がアカデミック系に大きく偏り若干の憂き目を見ましたが、合格圏内には入れました。筆記試験の内容は



研究室の実験台

私は学んで何の役に立つのだろうか」という疑問の答えとなった。振り返ってみれば、4年間の大学生活も充実していたように思う。特に3年連続で授業科目「つくばロボコン」を履修したのはいい思い出であった。工学の実務的な部分はここで身につけたように思うし、研究でも確実に活きている。来年度からこの科目のTA(ティーチングアシスタント)を務めることになったので、精一杯恩返しと、後輩の手助けをしていきたい。また、海外に行った時に、母国の日本の話が出来ない「灯台下暗し」状態なのは情けないと思っていたので、機会を見つけては各地を旅行していたのも良かった。

さて、僕は大学院進学という選択肢を採ったわけだが、就職する友人も多い中で少々負い目を感じている。自ら稼ぎ自らを養うというのは立派なものである。ここで僕に出来ることは、2年長く勉強に取り組むからには、より高度な知識を得る努力をすることだろう。この1年では勉強すべき事項が沢山出てきて、学習が全然追いつかなかった。内容が高度になっているから仕方ないと思うが、しっかり自分の知識としていき、社会で活躍出来る実力を身につけたい。



振動させることで質量を計測する方法についての研究計測するものを載せる部分を見るためには、顕微鏡を用いる



理工学群工学システム学類 4年

中村匠実

大学4年で研究生生活が始まって、もうじき1年が経つというのは信じがたい。それほど早く感じた1年であった。

そういえば、1年を体感する長さは、年齢に反比例するという話を聞いてとても感心した覚えがある(名前もあって、「ジャーネーの法則」というらしい)。小学生の頃の1日はとても長く感じられたが、今となっては、座って何かしていたら日が暮れている。ただし、この1年はその法則に加えて、充実していたのも要因であると思う。

なぜ充実していると感じたのだろうか？ 一番大きな要因として考えられるのは、大学に入学してから3年生まで、様々な科目を学んできた知識をようやく生かすことが出来たことだ。これは、今まで「こ



ピオチンを用いて計測したいものを装置に吸着させる準備で、装置を薬品に漬けている様子

人文・文化学群 日本語・日本文化学類

学類紹介

日本語・日本文化学類では、日本語と日本文化を世界の諸言語・諸文化と比較・対照しながら総合的に捉えて理解を深めるとともに、それらを異文化社会や次世代の人々に伝達する専門的知識を身につけた人材を育成します。



澤田先生を中心に「～のトコロ」表現について話し合う一同

世界の言語と日本語演習I

私たちは、物体の破壊を表現する時に、骨は「折る」もの、バリケードは「破る」もの、窓ガラスは「割る」ものという具合で、ものによって様々な動詞を使い分けている。しかし、これが英語では「bone」も「barricade」も「window」も全て「break」という一つの動詞を使って、その破壊を表せてしまう。

この授業ではこのような世界の言語と日本語との比較検討をする論文を講読し、その論文で取り上げられているトピックに関連する様々な問題を学生の意見も交えながら吟味していく。それらを通して、日本語を観察・分析する方法、ひいては言語の対照研究の方法を学ぶことがこの授業の目標だ。

(寄稿/小島久樹・日誌2年)

日本語・日本文化学類の学生より



「学ぶだけではなく発信までを行いたい。」そんな私にとって日本語・日本文化学類(略して日語)は求めていた学びそのものだった。今、私は日本語教育を学んでいる。私たちが日常で無意識に使っている日本語について考える日本語学・日本語文法だけでもとても興味深い。日本語教育はそれに加えて、知らない人に理解してもらう方法を考える。日本語教育の面白いところは、相手が人間であることだ。生徒は機械ではない。同じことを教えてははずなのに生徒によって理解が異なる。一度教えたことを理解するとは限らない。以前覚えたはずなのに今頃になって間違ふ。授業中眠くなるし、飽きるかもしれない。そんな不安要素がたくさんある「人」を相手にどうすれば楽しく・定着する授業ができるかを考える。入学してから、いくつかの研修で日本語を教えたが、教える経験はいつでも刺激がある。これまでの授業方法が次の生徒にも適切とは限らない。一期一会を大切に今回出会う生徒にとって最高の授業を考えることは日本語教育の醍醐味だと思う。(寄稿/永野恭子・日誌3年)

今後の主な予定 (変更になる場合があります)

春季休業	2月17日～4月6日
同(東京キャンパス・夜間)	2月11日～4月10日
卒業式・大学院学位記授与式	3月24日
同(東京キャンパス・夜間)	3月25日
入学式	4月7日
同(東京キャンパス・夜間)	4月8日
体育会合同新歓	4月7日
新入生歓迎祭本祭	4月8日
新入生オリエンテーション(学群)	4月7日～12日
新入生オリエンテーション(大学院)	4月10日
同(東京キャンパス・夜間)	4月8日
授業開始(大学院)	4月11日
授業開始(学群)	4月13日
芸サ連合同新歓	4月16日
文サ連合同新歓	4月中旬
春季スポーツ・デー	5月13日、14日

宿泊施設・館内食堂のご案内

紫峰会基金協力者と旧紫峰会会員の方は1泊200円割引します

筑波研修センター

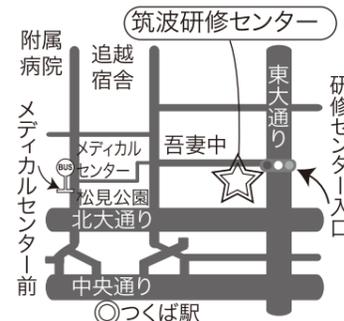
・1泊3700円より(食事別)
・シングル145室・ツイン5室・和室5室

筑波大学同窓会「茗溪会」の関連法人「(一財)筑波学都資金財団」が運営する宿泊施設です。電話予約は7時から24時まで受け付けています。割引対象の方は予約受付の時にお申し出下さい。

館内食堂 こうせい

・朝食500円均一
・定食750円より

バイキング形式、懇親会、パーティも承ります。内容、料金など気軽にご相談ください。(座席80名・立食可)



〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5
Tel 029-851-5152 Fax 029-851-8886

E-mail center@meikei.or.jp URL http://www.meikei.or.jp/~center/

紫峰の風 第3号 2017年2月発行

発行 連携・渉外室

編集 学生部学生生活課

学生広報会議(長坂美優・創成1年、坂井大悟・情報1年、劉承桓・地球2年、大野茜・応理2年、仲清峻・知識2年、笹井裕平・医学1年、佐々木寛明・生物1年) 広報部会(黒川正臣・生命環境1年、山岡光瑛・情報4年、米山和文・物理4年、清野晃平・生物3年、村上優衣・人文3年)

タイトルロゴデザイン 塚本真理(芸専4年)

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話: 029-853-5886

E-mail: gk.shihokai@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学モニュメントツアー

執筆：秋本祐一郎・人文2年
劉承桓・地球2年
清野晃平・生物3年

筑波大学には至るところに銅像などのモニュメントが点在しており、筑波大学の学生たちは日々の通学や授業間での移動の際に頻りに見かけます。しかし、そのモニュメントが一体何のために創られたのか、またモデルは何なのか、そういったことを知っている学生は多くありません。そこで今回の特集では普段の生活ではあまり気に掛けることのないモニュメントに注目しました。皆様にモニュメントの内容や種類、場所を知ってもらい、大学内の新たな発見として筑波大学により深く興味を持ってもらいたいと思います。

※筑波大学アートツアー (URL: http://www.art.tsukuba.ac.jp/art_tour/2011/) も合わせてご覧ください。

坪井玄道先生之像 ①

坪井玄道先生之像は体育センターの入り口に位置している。坪井玄道先生はスポーツを学校体育の中に取り入れた人物であり、テニスやフットボール等のスポーツを日本に紹介した。体育に関する多くの著書・訳書を書き、「学校体育の父」と呼ばれている。また彼は本学の前身である東京師範学校の体操伝習所教諭、高等師範学校教授を歴任しており、そのことを褒め称えるため、1977年にこの像が除幕された。



嘉納治五郎先生之像 ②

講道館柔道を創設した嘉納治五郎先生は、筑波大学の前身校である高等師範学校及び東京高等師範学校の校長として、教育改革を行いつつ、近代日本で初の留学生の受け入れを推進するなど、日本の学校教育の充実、体育・スポーツの発展、そしてオリンピック・ムーブメントの推進に活躍された。

その偉業を称えとともに、理念を継承するため、筑波大学基金として寄附を募り、生誕150周年となる2010年12月10日に除幕式を行った。

またこの像は、大隈重信像も制作している文化勲章受章者の彫刻家朝倉文夫氏が制作した。



大気 ③

大学会館からベデストリアンデッキを下り、第一エリアの手前まで来ると、左手の芝生に人型の像が見える。

「大気」と題されたこの作品は、書間弘氏によって製作されたものである。

片手を大きく頭上に伸ばし、もう片方の手でどこか遠くを指差すこのポーズが何を意味しているのか。なぜ「大気」というタイトルなのか。色々と興味深い作品である。

第一、第二、第三エリアに向かう途中にあるので、登下校の際目にする学生も多いのではないだろうか。それ故学内の像の中でも目立った存在だといえる。



Miserere XVI ④

筑波大学の第一エリア、第二エリア、第三エリアが接している場所。そこが石の広場であり、その石の広場にあるモニュメントが「Miserere XVI」である。

このモニュメントは、東京高等師範学校出身で文化勲章を受章された中村晋也さんが、2008年の筑波大学名誉博士称号授与式に先立ち寄贈されたブロンズ像であり、日本人として初めてパチカン美術館に収蔵された「Miserere」シリーズの一つである。

静謐なる美しさの中に深い精神性をたたえたこのモニュメントを、一度しっかりとご覧になってはいかがでしょうか。



芸術系サークル連合会活動紹介 ～芸サ連をもっと知りたい～

1年間を振り返って

芸術系サークル連合会
第40期運営委員長
江崎可音（芸術専門学群3年）



芸術系サークル連合会（以下、芸サ連）とは、芸術系の学生団体33団体からなる学生組織です。芸サ連の運営は各加盟団体から1人ずつ選出される運営委員によって担われており、団体が個々で行うことが難しい大学業務とのやりとりなどを行なっています。

私が運営委員長になった時、芸サ連はすでに組織として崩壊していました。第40期運営委員は芸サ連のゲの字も知らないような人々の集まりで、自分の団体がなんのために芸サ連に所属しているのかも分かっていませんでした。なぜ自分がこの作業をしているのかも理解しないままに、与えられた作業をこなすだけの団体の犠牲者であるという認識が芸サ連の中に定着していたのです。前年度委員長の意思を引き継ぎ、1年間執行部はなんとか芸サ連を立て直そうと必死に走ってきました。私たちのしてきたことが本当に正しかったのかは未だわかりませんが、少しずつ芸サ連は変わってきています。皆が芸サ連の重要性に気付くには一度解散してしまった方がいいのではないかと思います。思い悩むことは何度もありましたが、そんな中でも第41期は発足しました。まだ、芸サ連に希望をもつ人が少なからず存在するという事です。どんなに上手くいかないことがあったとしても、彼らの思いが途絶えることなく、再びその意思を引き継ぐものが現れることを心から祈っております。



雙峰祭を終えた後の集合写真

落語研究会

筑波大学落語研究会は日本の伝統芸能である落語について、様々な角度から研究を行っているサークルです。普段の活動では定期的に落語会を開催したり、福祉施設や地域の集まり等からご依頼をいただいて出張余興にうかがったりもしています。特に学園祭時に会員総出で行う「筑大寄席」は、多くのお客様にご来場いただきご好評いただいている恒例企画です。年に数回学生落語の大会もあるため、その舞台を目指して活動している会員も多いです。もちろんプロの落語を聴きに行く機会も設け、浅草周辺まで足をのぼすこともあります。また筑波大学で唯一「お笑い」について研究しているサークルでもあり、学生芸人としてコントや漫才に力を入れている会員も多数在籍しております。

（寄稿／落語研究会代表責任者 池上雄紀・生物2年）



7月に行われた番組発表会後の集合写真

THK 筑波放送協会

我々「THK 筑波放送協会」は筑波大学唯一の総合放送サークルです。会員はアナウンス・イベントスタッフ・映像制作・ラジオ制作の4つの局に分かれて活動しています。しかし、局間の垣根はなく、自由に活動しています。

また、定期的に制作するものとして、テレビ番組「P-CUBE」・ラジオ番組「THK ラジオ学類!」をつくば市を中心に放送しています。他にも各種コンテストに参加し受賞したり、番組発表会を開催するなど様々な行事を行い、制作や技術向上に励んでいます。

何かをしたい、創りたい、伝えたい。これからのことを忘れずに活動してまいります。放送に関して未経験で入会し、今活躍している人もたくさんいます！ 会員一同、仲間をお待ちしております！

（寄稿／THK 筑波放送協会会長 曹乃康・エシス2年）



公演先での演奏の一場面

ときめき太鼓塾

私たち筑波大学ときめき太鼓塾は、その名の通り和太鼓を演奏するサークルです。大きな長胴太鼓や小さな締め太鼓、桶太鼓、そして笛など、様々な和楽器を使います。ほとんどのメンバーが大学に入ってから太鼓を始めています。練習は週に2～3回行い、自主練もします。現在は太鼓と笛をこよなく愛する20名ほどで活動していますが、なんとその半数は留学生です。活動としては、茨城県の色んなお祭りや幼稚園、小学校、介護施設等からご依頼を頂き、演奏を披露しています。お祭りにぴったりな元気な曲や、太鼓だけの激しくカッコいい曲も演奏します。和太鼓に親しみがない人も多いと思いますが、是非一度私たちの演奏をご覧ください。和太鼓ならではの元気が出る演奏をお届けします。

（寄稿／ときめき太鼓塾 榎本菜津美・比文2年）

芸サ連の仲間たち

この筑波大学には多くのサークルが日々充実した活動を行っています。その中でも今回の記事では芸サ連に所属している、合唱系サークルについて紹介したいと思います。

筑波大学の芸サ連に所属している合唱系サークルは、「合唱団むくどり」「混声合唱団」「男声合唱団メンネルコール」の計3つあり、日々活動に動んでいます。しかし、芸サ連のことをあまり詳しくご存じない方はこの3つのサークルは何が違うのかよく分からないと思います。

そこで今回これら3つの団体の方たちに、それぞれの団体の特色や他団体とのつながりについてのお話をさせていただき、これを読んでいる皆様にも合唱系サークルについてご理解を頂けたら幸いです。今回この記事を書かせていただきました。

以下の文は各団体への質問と回答になっております。

・自分のサークルの特徴

合唱団むくどり（以下、むくどりと略す）…

第一にどんなジャンルにも挑戦できるところが挙げられる。正統派な合唱曲からJ-POP、団員自らが編曲したものでなんでも良い。

また1人でも歌うことが可能なので、一般的には人数が多いほどいいとされている合唱団とは異なっていること。



合唱団むくどり

混声合唱団（以下、混声と略す）…

「常任指揮者」として外部の先生をお呼びしてご指導を賜り、その指導の下で毎年高田三郎作品と外国語曲を演奏していること。

高田先生の作品には自分たち混声のために作曲された曲集が存在し、4年に1度ほどの頻度でこの曲集を演奏しており、団体に対する「委嘱作品」が存在するというのは所属団員たちのちょっとした誇りになっている。



混声合唱団

男声合唱団メンネルコール（以下、メンネルと略す）…

他の合唱系サークルよりも人数が少ないためフットワークが軽く、遠いところでは北海道まででも演奏をしに行けること。また男性しかいないのでいつも気兼ねなく活動できる。



男声合唱団メンネルコール

・なぜ自分が今のサークルを選んだのか

むくどり…音楽経験が無く、芸術性を極める合唱よりも合唱を知らない人が聴いても楽しめるような音楽をやりたいと思ったため。

混声…自分は大学ではもっと「合唱団にいないければ歌えないような合唱曲」を歌ってみたいと思っており、入学以前より高田三郎先生の曲集「水のいのち」を歌ってみたいという思いが強くあったため。

メンネル…入学式後に配られたピラを見て興味本位で新歓に参加し、男声合唱特有の重厚なハーモニーに圧倒され、真面目に練習に取り組む雰囲気も自分に合っていると感じたため。

・他の合唱系サークルとの関わりについて

むくどり…定期演奏会のチケットのやりとりや、コンサートの後のレセプションに呼ばれたりする。

混声…互いに団員同士が演奏会を聴きに行くという交流は毎年行っている。

メンネル…毎年11月に行われるつくば市民文化祭音楽会に混声合唱団とメンネルが出演している。

・他の合唱系サークルの見習いたいところ

むくどり…一曲一曲に真摯に向き合っており、その結果大変芸術性の高い合唱を披露しているため、とても尊敬している。

混声…むくどりは合唱系でない団体との合同演奏会などがあり、そういった他団体との交流を盛んにしていること。

メンネルは人数は少ないものの声の重厚感や響きは素晴らしく、また人数が少ないからこそ細部を重視しているところを見習いたいと思っている。

メンネル…自分たちは例年つくば市民文化祭音楽会と雙峰祭の日程が重なっているため、雙峰祭に出店をしていないが、混声合唱団は同じ音楽祭に出演するにも関わらず毎年雙峰祭で出店しているところ。

また、合唱に関しては混声合唱団は強弱の付け方やハーモニーがしっかりしているところ、むくどりは合唱系に拘らず様々な曲を歌っていて聞いていて楽しくなるところが素晴らしいと感じている。

合唱団むくどり 団長 小島久樹

混声合唱団 団長 今泉彩香

男声合唱団メンネルコール 運営委員 岩佐竜二

文責 秋本祐一郎

体育会活動紹介 ～体育会をもっと知りたい～

1年間を振り返って

第40期体育会執行委員長
矢崎誠（体育専門学群3年）



「みんなの体育会」というスローガンのもと、1年間体育会は活動してきました。この目標は、強い部会の団体から趣味でスポーツを行う同好会まで、体育会の構成員が互いに応援しあい、時には切磋琢磨して活動することを推進するものでした。さらに、筑波大学体育会が行う活動を学内外、そして日本中の人々に知ってもらうことで“桐の葉”の名を世に轟かせる意味がありました。

1年を終えてみると、各部や個人が国内外の大会で例年以上に活躍したように思います。男子バスケットボール部のインカレ3連覇やダンス部の2年連続文部科学大臣賞受賞、蹴球部のインカレ優勝等、数々の栄光がありました。これらを代表する体育会の活躍は、体育会創立40周年を飾るのにふさわしいものになったのではないのでしょうか。

皆さんの活動を支援していく立場として、私たち体育会執行委員会も創立40周年を飾るべく、様々な工夫や考えを重ねて活動しました。私自身、執行委員としての2年間を振り返ると、リーダー研修会や体育会納会の運営等、体育会を充実させるために行った活動は数え切れないほどです。苦勞したことも多々ありましたが、どれもやりがいのある活動でした。委員長としてこれらの業務を全うできたことをとても嬉しく思います。

日本のスポーツ界は2020年に東京オリンピックを迎えます。その際は、一人でも多く筑波大学体育会所属の選手や関係者が大会を盛り上げてくれることを強く願っております。1年間本当にありがとうございました。



交代代時の集合写真

剣道同好会

筑波大学剣道同好会は、剣道の稽古を通して心身を錬磨するという趣旨のもと活動しています。日々の稽古として週3回の通常稽古のほか、冬期の寒稽古や午前から午後及び集中稽古に取り組んでいます。私達同好会員は、これらの稽古に取り組む中で各々の課題を互いに教え合い、改善しながら大会へと臨んでいます。一方、同好会らしく親睦を深めるために皆が楽しめるイベントを企画することもあります。

現在同好会には約25名が所属し、そのうち経験者がほとんどではありませんが、その年数は様々です。剣道に取り組む理由も「強くなりたい」「健康のために」「趣味として」などそれぞれであり、自身の定めた目標に向かってこの比較的自由的な環境で過ごしています。

（寄稿／剣道同好会主務 東谷一照・資源2年）



第65回全日本大学サッカー選手権大会 優勝

蹴球部

私達蹴球部は「よい選手・よいチーム・よい指導者」の理念のもと、日本サッカー界を牽引する存在となるべく日々の活動に取り組んでいます。4年生が抜けた現在、4チーム115名で活動しており、日々激しい競争環境に恵まれています。

創部120周年を迎えた今シーズン。リーグ戦2位、夏のトーナメントは2回戦敗退と思うようにいかず苦しみましたが、先日行われた今シーズン最後の全日本大学サッカー選手権大会では、決勝戦で日本体育大学を破り13年振りの優勝を果たすことができました。4年生を中心に、160名の部員が一丸となれたことが最大の勝因だったと思います。今季は「常勝」というスローガンのもと、ピッチ内外での日本一を目標とし、日々の活動に取り組んで参ります。

（寄稿／蹴球部主務 堀田雄一郎・体育3年）



2016年秋季リーグ戦 神奈川大学戦

アメリカン・フットボール部

私たちアメリカン・フットボール部は、関東学生アメリカンフットボール連盟の二部リーグに所属しています。昨年は二部6位という納得のいかない結果となってしまいましたが、今年は「結～for the team～」をフィロソフィーに一部昇格を目指して活動していきます。1月20日から新チームが始動し、現在は体作りのためウェイトトレーニングや栄養管理などに力を入れています。

昨年、関彰商事様の寄付により人工芝のグラウンドがつくられ、より質の高い練習ができるようになりました。自分たちの活動は、多くの方に支えられてできているということを忘れずに日々の練習に取り組み、何としても今年の9月から行われるリーグ戦で勝利して、一部昇格を果たしたいと思っております。応援よろしくお願ひします。

（寄稿／アメリカン・フットボール部主務 熊澤拓喜・社会3年）



得意のミドルシュートを放つ栗根選手

医学バスケットボール部

私たち医学バスケットボール部は、現在48名で活動しています。練習は週3回、主に第2体育館にて行っています。分解練習・ゲーム練習の中で部員同士で積極的にコミュニケーションを取り合うことを日々意識しています。また、近年はマネージャーの人数も増え、良い雰囲気で行っています。

出場する主な大会として、春・秋の医学系の大会、冬に行われるつくばカップ、そして夏の東医体があります。この中でも、東医体は最も規模が大きく、東医体ベスト4を目指して今年度も練習しています。

今年度の春大会では2回戦敗退、東医体では1回戦敗退という悔しい結果でした。しかしここで立ち止まらず、秋以降も再び東医体ベスト4という目標を掲げて、日々努力しています。

（寄稿／医学バスケットボール部主務 鈴木秀典・医学3年）



向上心あふれる医学スキー部副主将

医学スキー部

私達、医学スキー部は年2回の大会に向けて日々トレーニングをしています。春の新歓に始まり、夏の期間はスキーするのに必要な筋力・体力、さらには体の動かし方やバランスのとり方を陸上で学んでいきます。夏合宿ではタイヤ付きのスキーで雪上に近い環境の中、実践的に練習をします。そうして得た感覚を大事にしなが、冬は3回の合宿をベースにフリースキー、またポールを立てての練習で大会を視野にトレーニングをします。部員は長い合宿をともにするため仲がよく、アットホームな雰囲気が自他ともに認める長所です。また、医学の部活ということで初心者が多いのですが、合宿をともにしてくれる優しいコーチとともに部員全員でお互いの技術向上を支えています。

（寄稿／医学スキー部主務 三石一成・医学3年）

全学学類・専門学群代表者会議活動紹介 ～全代会をもっと知りたい～

1年間を振り返って

全学学類・専門学群代表者会議 議長
鈴見祐佑（物理学類2年）



議長を務めたこの1年間は、どのようなことを行えば筑波大生の学生生活が向上するのに関して、試行錯誤の日々でした。筑波大学内には多数の学生組織が存在しており、各々が学生の生活向上に向けて活動しています。その中で、「筑波大生の学生生活の質向上を図る」という全代会の役割は、非常に抽象的なものだとは私は考えました。例えば各学類・専門学群に設置されたクラス代表者会議は、授業の批評や使用する棟の問題提起など、その学類・専門学群にとって有益となる活動を行っています。これらの活動も学生からすると、学生生活の質向上を図る組

織と捉えることができます。

では全代会はどうあるべきか？ 全代会だからこそできる全学的な活動は何か？

そんな議論を繰り返しました。そして至った考えが、「筑波大生の学生生活の質向上を図る」諸組織を、全学的なパイプとしてつなげる役割です。各々の組織が独立して活動を行う今、諸組織の活動には、ある一定の需要が生まれていることは確かです。しかし、独立している結果生じている問題もゼロではありません。また、組織間でつながりや交流があれば、更なる発展が期待できる組織も多数存在します。こうした組織の懸け橋になることで、全代会だからこそできる、筑波大生の学生生活の質向上を図る役割を全うできると考えました。この1年間で生まれたつながりを大事にし、これからの全代会や筑波大生にとって、有益なものにしてほしいと願っています。

文化系サークル連合会活動紹介 ～文サ連をもっと知りたい～

1年間を振り返って

**文化系サークル連合会
第41期運営委員長
長瀬利勝**



職務の後半に行くにしたがって次の代のことに向けた仕事が増えていき、もう1年が過ぎるのだなと徐々に実感のようなものを抱いておりましたが、こうして実際に終わりを迎えますと、1年という時間の短さと、それがもたらす変化の大きさに驚いております。

この役割に就くまでは自分が所属する団体以外はほとんど分からず、文化系サークル連合会なる組織があることすら知らずに課外活動に励んでおりました。それから役職に就き、いろいろなることを知るうちに、ある1つのことに気づいていきました。組織の仕組みなどを把握するのがとても苦手な私にとっては複雑に見える組織や煩雑に見える手続きの一つ一つが、私たちの活動を支えてくれる1本1本の柱であり、見えないところで頑張ってくれる人がたくさんいるということです。これは課外活動に限らず、今後なしていくことすべてに言えることではありますが、組織の中心に立ってみることで初めて真に迫って考えることができたなと感じております。

私事ばかりになってしまいましたが、課外活動の大切さを少しでも伝えることができたかと思ひ、このような内容に致しました。文化系サークル連合会の強みはどんな団体でも受け入れる懐の深さにあると思っております。今後も所属団体の幅を広げ、熱意と不思議と笑顔があふれるような連合会になっていくように願いまして、振り返りのあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。



日々対局に勤しむ将棋部員

将棋部

将棋部には現在、21名が在籍しています。毎週金曜日のミーティングのほかにも、平日の昼下りに部室に行けば誰かが将棋を指している、そんな自由なサークルです。基本的な活動は、大会などに向けて棋力を向上させるため、部員同士で将棋を指すことです。に加え、近年は「つくば小中学生将棋大会」の企画・運営や「つくばボードゲーム愛好会」の活動への部員派遣など、将棋の普及活動にも関わっています。昨年の雙峰祭では、来場者の方々と部員たちが自由に将棋を指して交流する「ふれあい将棋コーナー」を設けました。

今年の将棋部の目標は、関東大学将棋団体戦においてB1級へ昇級することです。部員一同、頑張ります！
(寄稿/将棋部代表 小原悠太・地球2年)

ねっしー・自然教育研究会

筑波大学 ねっしー・自然教育研究会では、2ヶ月に1回程度、つくば市周辺に住んでいる小中学生を対象として「自然」をテーマとしたイベントを行っています。企画の立案からイベントの準備、当日の運営まで全て大学生が自主的に行っています。毎年夏には3泊4日のキャンプのイベントを行っており、子どもたちに野外炊飯やテントでの生活を体験してもらっています。キャンプに参加した子どもの親御様からは、「子どもが料理の手伝いをしてくれるようになった」「たくましくなって帰ってきた」等の嬉しい声を頂いております。

最近では、12月に「クリスマスの起源」をテーマとしたイベントを行いました。冬至について学べるミニゲームやキャンドル作り、ブッシュドノエル作り等を行い、クリスマスがもともと冬至を祝うお祭りだったということ、キャンドルは星空をイメージしてクリスマスに飾られるようになったということ、ブッシュドノエルはもともと木の切り株をイメージして作られたものだということ等を子どもたちに学んでもらいました。当日子どもたちは大はしゃぎで、自分で作ったキャンドルを嬉しそうに持ち帰りました。

今後の活動としては、2月に「サバイバル」をテーマとした1泊2日のイベントを計画しています。ミニゲームや食事など、今まさに大学生が企画案を練っているところです。これまでの経験を踏まえ、さらに子どもたちにとって実りあるイベントになるよう会員一同励んでまいります。

(寄稿/ねっしー・自然教育研究会前会長 坂梨瑠南・生物3年)



昨秋の探訪にて山梨県名産のほうとうを食べる構成員

歴史探訪会

歴史探訪会は、歴史に関する見聞を深めるために全国の様々な史跡等を巡り、実際に見学するということを主にしているサークルです。毎月構成員から候補地を募り、一番人気の高い地に日帰りで探訪を行なっています。また、毎年長期休みには2泊3日の探訪に出かけています。昨年の夏には函館を訪れ、五稜郭や修道院など幕末の独特の雰囲気を感じてきました。この春には米沢や鶴岡、蔵王などを訪れる予定です。活動のメインが学外のため、構成員同士の接点も多く、和気藹々とした雰囲気(あたたか)のサークルです。今年は、探訪だけでなくさらに構成員が楽しめる機会を増やすことを目標に、新しく入ってくる会員を迎えられるよう頑張っていく所存です。

(寄稿/歴史探訪会会長 鈴木景祐・人文2年)

平成28年度 卒業式のご案内

■日時 平成 29 年3月 24 日(金)
■会場 つくば国際会議場大ホール
(茨城県つくば市竹園 2-20-3)

【第一回】

対象組織：人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、理工学群、理療科教員養成施設

入 場 8：50～9：10
開 式 9：30
閉 式 10：15

【第二回】

対象組織：生命環境学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群

入 場 10：50～11：10
開 式 11：30
閉 式 12：10

平成29年度 入学式のご案内

■日時 平成 29 年4月 7日(金)
■会場 つくば国際会議場大ホール
(茨城県つくば市竹園 2-20-3)

【第一回】

対象組織：人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、理工学群、理療科教員養成施設

入 場 8：40～9：10
開 式 9：30
閉 式 9：55

【第二回】

対象組織：生命環境学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群、編入学者

入 場 10：40～11：10
開 式 11：30
閉 式 11：55

平成28年度 大学院学位記授与式のご案内 (筑波キャンパス)

■日時 平成 29 年3月 24 日(金)
■会場 つくば国際会議場大ホール
(茨城県つくば市竹園 2-20-3)

【第一回】

対象組織：教育研究科、人文社会科学研究科、数理工学物質科学研究科、ビジネス科学研究科、システム情報工学研究科

入 場 12：40～13：00
開 式 13：20
閉 式 14：05

【第二回】

対象組織：生命環境科学研究科、人間総合科学研究科、図書館情報メディア研究科、グローバル教育院

入 場 14：40～15：00
開 式 15：20
閉 式 16：05

平成29年度 大学院入学式のご案内 (筑波キャンパス)

■日時 平成 29 年4月 7日(金)
■会場 つくば国際会議場大ホール
(茨城県つくば市竹園 2-20-3)

【第一回】

対象組織：教育研究科、人文社会科学研究科、数理工学物質科学研究科、ビジネス科学研究科、システム情報工学研究科

入 場 12：30～13：00
開 式 13：20
閉 式 13：45

【第二回】

対象組織：生命環境科学研究科、人間総合科学研究科、図書館情報メディア研究科、グローバル教育院

入 場 14：20～14：50
開 式 15：10
閉 式 15：35

卒業式・大学院学位記授与式、入学式・大学院入学式 共通連絡事項

※式の時間については予定時刻となっております。進行の都合上、変更となる場合がございますので、ご了承ください。

ご家族の方々は、収容定員の関係により、つくば国際会議場内の別室で、スクリーン等による視聴となりますことをご承願いたします。また、つくば国際会議場周辺の駐車場は非常に数が限られておりますので、公共交通機関をご利用ください。なお、式の模様は、筑波大学HP (<http://www.tsukuba.ac.jp>) からご覧いただける予定です。

《アクセス》・つくば国際会議場へは、「つくば国際会議場HP」をご覧ください。
(URL：https://www.epochal.or.jp/access/map_shuhen.html)
TXつくば駅から徒歩約10分です。
問合せ先：筑波大学総務部総務課029-853-2025 (平日の8:30-17:15)

平成28年度 大学院学位記授与式のご案内 (東京キャンパス・夜間)

■日時 3月 25 日(土)
■会場 東京キャンパス文京校舎
多目的講義室1

受付開始 14：45
開 式 15：30
閉 式 16：10

平成29年度 大学院入学式のご案内 (東京キャンパス・夜間)

■日時 4月 8日(土)
■会場 東京キャンパス文京校舎
多目的講義室1

受付開始 14：30
開 式 15：00
閉 式 15：20